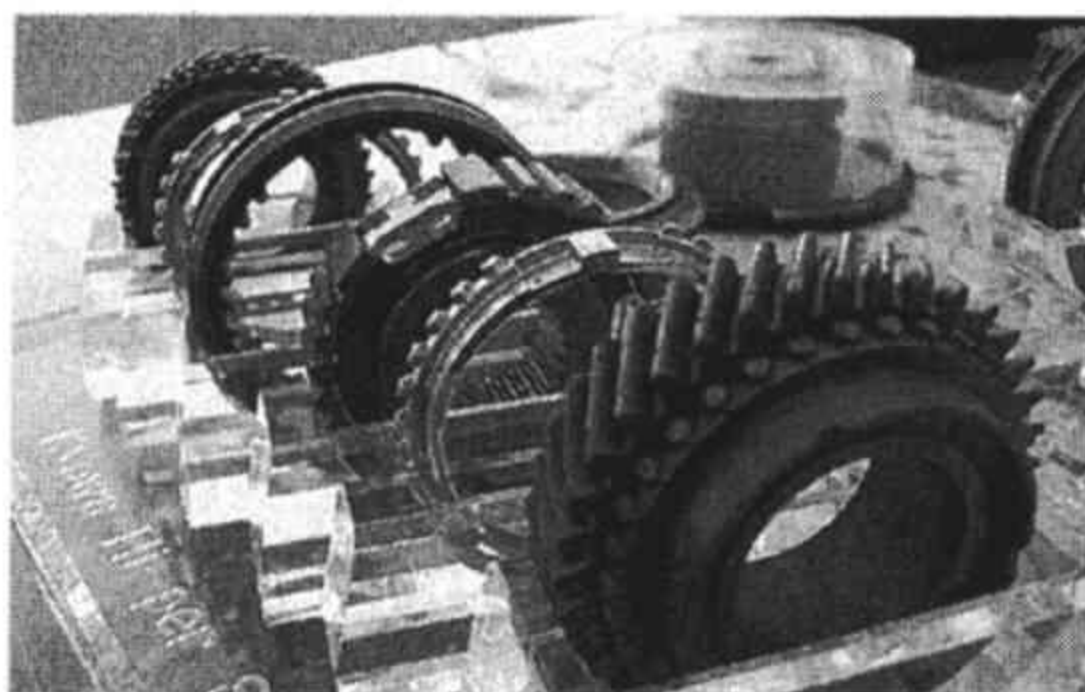


協和合金（横浜市）は自動車の変速機部品を製造する。変速をより滑らかにするため、てこの原理でギアを動かす独自技術を開発した。新素材の積極活用で軽量化やコスト削減にも力を注ぎ、国

# 躍進企業 in かながわ

## 協和合金（車の変速機部品製造）



協和合金が開発したレバースィンクロナイザーの構成部品



高島真澄社長

向けだ。内需の減少で苦慮しているのではと問うと、高島真澄社長は「現在でも海外市場の四〇―四五％はMT車。特に新興国では（MT車の）比率が大きい」と説明。世界に目を配れば、MT市場はなお成長の余地がある

### 《会社概要》

- ▽本社 横浜市金沢区 鳥浜町17-4
- ▽設立 1947年1月
- ▽事業内容 自動車用部材の開発・製造
- ▽売上高 72億円 (2009年3月期見込み)
- ▽経常利益 3億円 (同上)
- ▽従業員数 160人

## てこの原理でギア滑らか

軽い素材 積極活用

内外の自動車メーカーに供給している。近く新工場の建設も計画しており、一段の業容拡大を目指している。

社の本社兼工場はある。工場では大きさも形も様々なリング状の部材が次々と生産されている。変速機内部のギアを滑らかに切り替えるために欠かせない「シンクロナイザー

と強調する。海外需要を取り込む手はずでに打ってある。一九九五年に中国・武漢の現地企業と合併会社を設立。〇四年には欧州の販売拠点としてキョーワシ

上げ、仏ルノー向けに部品を供給している。「米国の自動車市場の落ち込みは欧州などで補える」（高島社長）と話す。同社の主力は売り上げの四―五割を占める「レバースィンクロナイザー」

など、銅合金を製造すると呼ぶ独自製品。通常のシンクロナイザーが歯車をかみ合わせて動力を生み出すのに対し、同社の製品は内部に円弧形のレバーを組み入れ、てこの原理を応用して部材間の接着面をより広く取ることで、滑らかに大きな動力をギアに伝えられる仕組みだ。この技術はすでに日本、中国、欧州で特許を取得。日産自動車やスズキなど国内主要メーカーのほか、欧州メーカーも採用している。同社はもともと中国で南満州鉄道の車両部品などを手掛けていた。戦後、日本に引き揚げて一九四七年に東京・大田で自動車向けの部材や「農機具に使う鋳物」（高島社長）

など、銅合金を製造する栗原工業を設立。五〇年に社名を協和合金に変更した。五九年に日産自動車向けに納入を始めたのをきっかけに、自動車部品市場に参入した。エンジン性能を一〇〇％引き出すには精密性はもちろん「強度と摩擦力も大事」。さらに性能を上げるため、理化学研究所と協力して鉄を使った新製品の開発に力を入れている。現在主流の銅合金に比べ「コスト削減や軽量化も図れる」（高島社長）とみて実用化を急ぐ。

千葉県工業団地にはすでに新工場の用地を確保。「一速から五速まで扱う部材を増やしたい」と意欲をみせる。

# 神奈川